

「子供の森」計画

in 中国



子どもたちの「自然を愛する心」を育みながら地球緑化を進める「子供の森」計画。中国・アラ善地域は面積の92%が砂漠で、砂漠化がさらに進行している地域です。黄砂の原因でもあるこの砂漠に緑を回復させるために乾燥に強い植物の研究や植林手法の研究を行いながら活動を進めています。

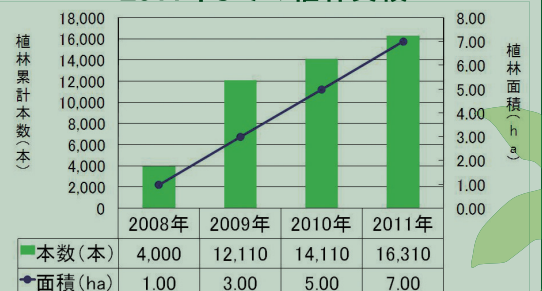
Lnglane ©LAYUP

2011年の活動

- 2011年は7の学校で重点的に植林活動や環境教育を実施 (植林2,200本・面積2.00ha)
- 内モンゴルの沙漠に毎年約2ha (200×100m) 植林!
- 生物多様性を学びながら植林を行う世界的なアクション「グリーンウェイブ」にも参加しました

「子供の森」計画参加学校数(2008年からの累計値)：7校

2011年までの植林実績



中国



- ◆人口：1341,414百万人 (2010年IMF推計値 日本は127,594百万人)
- ◆面積：約960万km² (総務省統計局資料2008年値 日本は37万8千km²)
- ◆一人当たりGDP：690 US\$ (2011年9月IMF試算値 日本は45,774 US\$)
- ◆森林率：22% (2010年FAO公表値 日本は69%)
- ◆「子供の森」計画積極展開地域 (丸印)：内モンゴル自治区アラ善地域



中国の活動を支援して下さる方を募集しています。
ご支援や各地域の子どもたちの活動の様子はこちらから

➔ 「子供の森」計画情報提供サイト
www.kodomo-no-mori.info



ベルマークや書き損じはがきも募集しています。
ベルマークは1点1円として「子供の森」計画の支援となります。
事務局までお送りください。

事務局



公益財団法人
オイスカ

〒168-0063 東京都杉並区和泉3-6-12
☎ (03) 3322-5161 ☎ (03) 3324-7111 E-mail oisca@oisca.org
<http://www.oisca.org/>

世界の緑の波の一つになった!

2011年5月23日、アラ善第八中学校は、世界中で一斉に木を植えようというグリーンウェイブキャンペーンに参加しました。この時期は植林適期を少し過ぎているため、植林ではなくポット苗作りをしました。細長いビニール袋の底をテープで止め、中におがくずと羊糞を混ぜた砂を入れ、種を植え付け、圃場に運び、水をやります。説明が終わると、子どもたちは自分たちで役割を決めて、それぞれ散らばっていきました。砂を入れる為にペットボトルを半分に切って簡易スコップを作ったり、流れ作業にしたり、効率よくできるように子どもたち自らそれぞれに工夫して作業を進める姿は頼もしいものです。200人もいたため、用意しておいたビニール袋は瞬く間に無くなりました。「もう無いの?!」と物足りなさそうでしたが、ポット苗を作る意味、世界の一員として緑化活動に参加することの意義を説明

すると、嬉しそうに顔をほころばせていました。

普段は受験勉強に追われている中国の子どもたち。こうした活動を通して環境を考える事の大切さ、緑化活動の楽しさを感じて欲しいものです。学校からオイスカセンターまでの往復6kmの道のりをたくましく行進し、ゴミを拾いながら帰って行きました。

内モンゴルのグリーンウェイブではポット苗をつくったよ



あっというまにできあがりしました



みんな楽しく活動しました

お互いが成長できた交流植林活動

一年前に姉妹校になった愛知県の逢妻中学校から、7名の生徒と先生が訪れ、一緒に植林活動を行いました。「子供の森」計画に参加する蒙古族完全中学校の子どもたちにとって植林は手慣れたものです。穴を掘る手つきもたくましく、水を運ぶのも軽々としたものです。初めて沙漠に植林する日本の子どもたちを手伝うかのように、率先して動き回っていました。内モンゴルの子どもたちにとってこの植林は、とても刺激になったようで、「遠い日本から、私たちの環境のために植林に来てくれる友人にとっても感謝しています」と話していました。英語でコミュニケーションを取りながら活動を進めていきましたが、日本の子どもたちは言い

たいことが英語で言えずもどかしそうです。「もっと英語を勉強しよう!」と決意した子どもたちも多いようです。

さて、内モンゴルの子どもたちですが、「子供の森」計画の活動を始めた当初は、活動のたびにゴミを散らかしてしまい、その度にコーディネータから環境の話を聞いたり、片付けの注意を受けていましたが、今は何も言われなくてもゴミをきちんと片付けて帰るようになりました。「子供の森」計画の活動が、少しずつ彼らの行動に変化をもたらしています。

日本の姉妹校の子どもたちと一緒に植林したよ



お互いが成長できた沙漠での植林活動



植林後にみんなで記念撮影

TOPICS

想いを行動にできる場所

乾燥地帯である内モンゴルの「子供の森」計画は、オイスカ沙漠生態研究研修センターを中心に実施しています。小学生から大人まで、いろんな人たちが中国全土からセンターを訪れています。センターが一番近い町「バインホド」の人たちも、毎週末センターを訪れて植林や農作業を手伝っています。町の人たちは、沙漠化の深刻さを強く実感していますが、具体的に行動を起こす場所がないのです。そうした人たちにとって、オイスカのセンターは想いを行動にできる最適な場所となっているのです。「沙漠化防止のために具体的に何かしたい」という人たちが今日もセンターを訪れています。



センターを訪問し環境問題について学ぶ子どもたち